

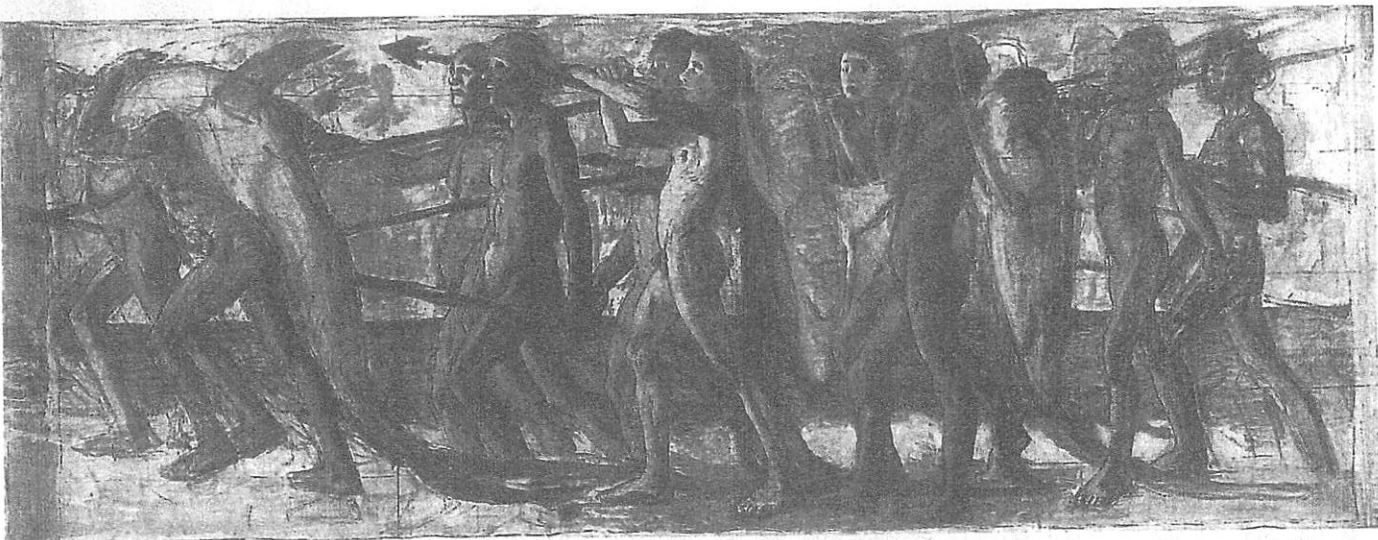
Topics ブリヂストン美術館の名品

パリで来年、特別展

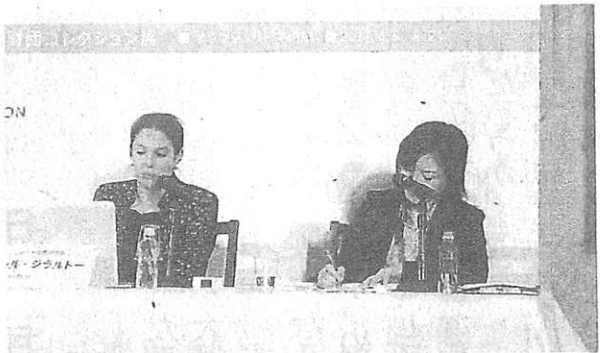
青木繁「海の幸」など紹介

ブリヂストン美術館で知られる石橋財団コレクション展が来年4月から4カ月あまりにわたって、パリ・オランジュリー美術館で開催されることが決まった。同館では、特別展として海外のコレクションをまとめた形で紹介するのは初めての試みだという。

「ブリヂストン美術館の名品―石橋財団コレクション展」は来年4月5日～8月21日に開催される。オランジュリー美術館・オルセー美術館とは、2012年



青木繁「海の幸」1904年 油彩・カンバス



パリで開かれる石橋財団コレクションについて説明するオランジュリー美術館学芸員のセシル・シラルドーさん(左)と高橋咲子

に共同企画「ドビュッシー、音楽と美術展」を開催。こうした縁から、フランス側の提案で実現したという。

東京・京橋のブリヂストン美術館は入居ビル建て替えるため現在休館中で、19年秋に開館予定。今回は、青木繁「海の幸」や藤島武二「黒扇」といった日本人画家が描いた近代洋画をはじめ、ルノワールの「すわるジュールジェット・シャルパンティエ嬢」やピカソ「腕を組んですわるサルタンバンク」など印象派から戦後の抽象絵画まで76点が展示される。

同コレクションは、1962年にパリ国立近代美術館で、フランス近代絵画の名作50点が展示されている。オランジュリー展では、その後増えた収蔵品や日本人画家による洋画の中からも紹介、収集家たちの活動にも光を当てる。石橋財団によると、「海の幸」が海外で紹介される初めての機会となる。

オランジュリー美術館のセシル・シラルドー学芸員は「ジャポニスムなど日本が西洋世界に与えた影響は研究されているが、その反対はフランスで知られていない。日本の洋画を紹介するまたとない機会になる」と話した。

【高橋咲子】